



作業員たちは
原因不明の症状に襲われていた。

チェルノブイリ事故の作業員が倒れていくが、IAEAの調査対象から外されていた。



原発事故のときに現れたら注意

原発事故の被ばく線量…ガラスバッチで住民を計測しただしたら、何かのこまかしだと思っべきだ。チェルノブイリのデータはフランスで処理され90%が検出限界以下とされた。被ばく線量の過小評価の材料の一つがつけられた。

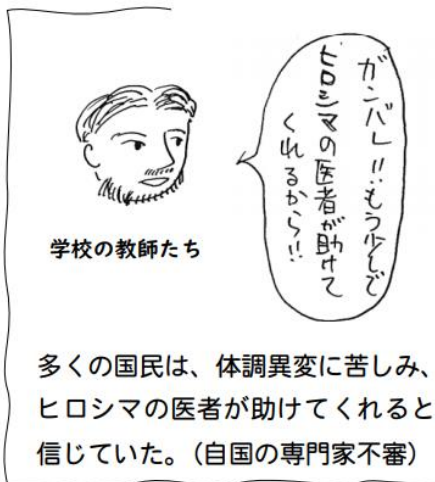


「1ミリ以上移住派」は世界規模の救援が必要だと思っていたが、蚊帳の外に追いやられていくことに



なんのためか？
よくわからない
ワンチーム

仲良くできるなら、米ソ冷戦って必要なかったのでは？



学校の教師たち

多くの国民は、体調異変に苦しみ、ヒロシマの医者が助けてくれると信じていた。(自国の専門家不審)



子どもたちは「鼻血」「頭痛」や「腹痛」に苦しみ、特に「小児甲状腺がん」の増加は次は誰なのか…と先が見えなかった。

事故の翌年、たった二人の小児甲状腺がんが見つかっただけで、ベラルーシの医師たちは異変を感じ取っていた…。
しかしソ連の核開発の重鎮たちや、医学アカデミーの副総裁などの面々は、国民の怒りや事故対策の隠蔽体質などの不満で信頼を失っていた。国民を押し込めむために外国の専門家の太鼓判を利用したかった。そして原子力産業擁護組織のIAEAもまた、事故を過小評価したい思想があった。
「科学による救済」をめざしていた「1ミリ移住派」はIAEAが救済者ではなく、特権階級と結びついていることに危機感を抱いた。



1ミリ

5ミリ

国民の健康！
遺伝子守る！

国が つぶれるわ

イリインの5ミリ説などはるかに凌駕する安全説がIAEAによって用意されつつあったことに気づいていただろうか。彼は小児甲状腺がんと放射能の関係を否定し続けた。